

XEROSTOMIA AND CANDIDA

Ayuko Yanagida, Takuya Kinoshita, Nobuko Nakagawa, Hisayuki Cho

Mako Kato, Tiyonori ino

*Jyuniti ito

Department of Otorhnoaryngoogy. Kori Hospital, Kansai Medical University

*Jirakata Kyouritu Hospital

Clinically we experience many patients with xerostomia.

And, those patients have various complications.

We find it caused by not only decrease

of saliva, but also by other factors. So, we focus on candida of oral cavity as one of the factors, and investigate the relationship between it and xerostomia.

口内乾燥とcandidaについて

柳田 亜由子 木下 卓也 中川 のぶ子
張 久 幸 加藤 真子 井野 千代徳
伊藤 純一*

関西医科大学附属香里病院耳鼻咽喉科

*枚方協立病院耳鼻咽喉科

はじめに

口内乾燥を訴える患者は、一般外来診察で頻回に遭遇するが、その訴えは単に口内乾燥にとどまらず、口内異常感の一症例として訴えることが比較的多い。このことは、いわゆる『口内乾燥感』の原因が単純に唾液量の低下のみならず、その他の要因が存在する可能性を示唆しているものと考えた。そこで、今回は、口内のcandidaに注目して、口内乾燥感との関係を調べたので報告する。

対象と方法

口内乾燥を訴えた症例147例を対象とした。男性が28名、女性が119名で平均年齢は63.3才であった。初診において、口内乾燥感を訴

えた症例は、当日血液検査を受け、唾液腺外来を受診する。再来の日に早期唾液を指示された容器に入れ持参する。唾液腺外来では、詳細な病歴を聴取された後、通常ガムテスト、耳下腺造影を受ける。

結果と考察

1. ガムテストの結果 (n=71)

ガムテストにおいて、10mlを越えた症例は24例、33.8%であり、10ml未満の症例は47例66.2%であった。

2. 早期唾液菌検査結果 (n=126)

candidaの存在が証明された例は、68例、54%であり常在菌以外の菌としてstaphylococcus aureusが時に証明された。図1にガム

テスト早期唾液検査を施行できた61症例につき両者の関係を示した。ガムテストの正常値を10ml未満¹⁾とすると口内乾燥感を訴えた症例にもかかわらず44.2%の患者が正常範囲に入ることが解った。

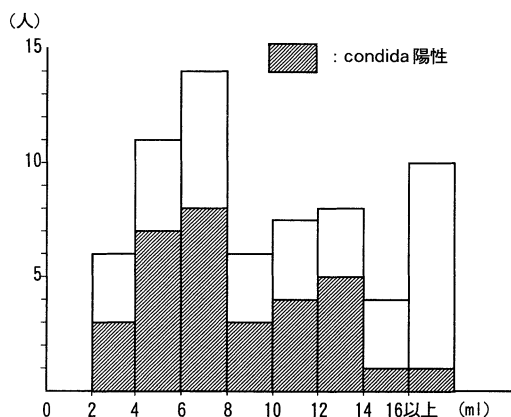


Fig. 1 ガムテストと candida 陽性例の関係

口内乾燥感の原因は実際の唾液腺機能の低下のみならず、精神的な要素もそのひとつとされている。今回は、その要因のひとつとして口内の candida に注目し調べてみた。その結果口内乾燥を訴えた患者の54%に candida の存在がみとめられた。ガムテスト結果とその関係においては、唾液量が10ml未満の症例に candida が多く証明される傾向あったが、唾液量に多い症例においても candida が証明される例もあった。candida が証明された症例に対して種々の「うがい薬」にて経過を追ったところ、ガムテストで正常範囲で candida の証明された症例において candida の消退が口内乾燥感のそれと対応する例があり、candida は口内乾燥感を含めた口内異常感の一因になり得るものと考えている。

(文献)

- 1) 山内康平；高齢者の口内乾燥に対する白虎加人参湯の臨床効果，口咽科，3；69～77，1991.